

モデル小学校区における 実践事例

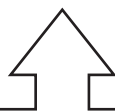


接続前期（5歳児10月～12月）

みんなで つくったよ

友達との関わりの中で、共通の目的に向かって考えを出し合って遊ぶ時期

＜共通の目的をもち、友達と一緒に実現する体験を＞




チーム意識をもち競い合う楽しさを味わったり、一人一人が自分の力を発揮し満足感や達成感を味わったり、自信をもったりするような援助や環境構成の工夫を

事例1 接続前期 おばけやしきに いらっしやい 10月 保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 身近な環境に主体的に関わり，考えたり工夫したりしながら，諦めずにやり遂げることで満足感を味わい，自信をもって行動するようになる。</p> <p>【思考力，判断力，表現力等の基礎】 同じ思いやイメージをもつ友達に経験したことや考えたことを自分の言葉で伝え，遊びを進める。</p> <p>【学びに向かう力，人間性等】 友達と一緒に思いや考えを伝え合いながら，楽しんで遊ぼうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の思いや考えを聞いたり受け止めたりして遊びを進めていく。【人間関係】 ・遊びや生活の中で数量や図形などに関心をもつ。【環境】 ・自分の思いや考えを自分なりの言葉で表現する。【言葉】【表現】 ・経験したことを相手に分かるように伝えたり，行動で示したりする。【表現】



ねらい 共通のめあてをもって，友達と考えを出し合って遊ぶ楽しさを味わう。	
活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
<p><遊びや活動の経過></p> <p>この時期はハロウィンの広告や商品が身近にあるため，お化け，カボチャ，コウモリなどに興味をもち，話をしたり，絵に描いたり，お化けに変身したりすることを楽しんでいる。</p> <p>そこで，「皆，お化けになってみる？」と提案する。すると，「おばけ屋敷をつくりたい」という声上がり，話し合いをしたり必要な材料を集めたりしながら意欲的につくり始める。</p>	
<p><お化け屋敷をつくっていこう></p> <p>T：段ボール箱ですよ。どんなふうにつくっていくかな。</p> <p>C：やった！僕たちはお化けの手が出る場所をつくろう。</p> <p>T：ここは何ができるのかな。もしかして手が出るとか。</p> <p>C：ピンポン。ここから手を出して，来た人をおどかすよ。</p> <p>T：すごい。びっくりするよね。</p> <p>C：僕がかくれて，人が来たらそうっと手を出すよ。</p> <p>C：でも，これに気付くかな。</p> <p>C：高くして赤いガムテープでつなぐと絶対見ると思う。</p> <p>C：いい考え。そうしよう。</p> <p>★：考えが具現化できるように，試行錯誤する時間を保障したり，材料の準備をしたり，思いに共感したりする。</p> <p><お化け屋敷の通り道をつくろう></p> <p>C：私たちは通り道をつくるから段ボールをつないでいこう。</p> <p>C：ゴールまで長くしないとね。</p>	<p>・友達と思いや考えを伝え合い試行錯誤しながら，自分たちのめあてを実現しようとしている。【協同性】</p>  <p>・段ボールの大きさ，長さ，厚みなどの特徴を確かめながら材料を選び，強度が増す貼り方などを考えつくっている。【思考力の芽生え】</p>

C：お化けがかくれる所もつくろう。段ボールを立てないと。
 C：どうやって立てるの。箱のふたを床に貼っていこう。
 C：同じ段ボールをいっぱい持ってきてつなごう。
 C：いいね。オッケー！
 C：Aちゃん、ここ持って。段ボールが倒れないようにガムテープを貼るから。ギュッと押さえて。
 C：いいよ。うまくいくかな。
 C：できた。倒れないね。助かったありがとう。

★：道が壊れないように考えてつくっては試している過程を他の幼児にも知らせ、活動意欲を高める。

<ぶら下げお化けをつくろう>

C：上にもお化けがいるところわいよね。天井からぶら下げたらいよね。
 C：ぶら下げお化けよね。お化けの絵をかこう。
 C：僕はコウモリをつくるよ。だって暗い所にいるから。
 C：ハロウィンみたいにカボチャもぶら下げようか。
 C：たくさん下がっている方がいいから頑張ってみようね。

★：豊かな発想でつくったお化けを他の幼児に紹介したり、表現したいイメージを認めたりして、アイデアを引き出すようにする。

<入口が分かるようにしよう>

C：お客さん（3・4歳児）に入口が分かるように看板を出そうよ。
 C：いいね。何て書く？
 C：「お化け屋敷」でいいよね。大きく書こうね。
 C：みんなで一枚ずつ書こうよ。B君、どれを書く？
 C：「お」は書けないと思うけど、「し」なら書けるよ。

★：これまでの経験から、看板があると3・4歳児が分かりやすいということに気づき、自分ができることを生かして友達と一緒に看板をつくろうとしている姿を認める。



・自分がもっているお化けのイメージを表現したり、友達から刺激を受けて新たにイメージしたお化けを表現したりして楽しんでいる。

【豊かな感性と表現】



・3・4歳児が理解できるようにアイデアを出したり、友達と協力したりして看板をつくり上げていく楽しさを味わっている。【協同性】



考
察

○実践のように、接続中期に「お化け屋敷をつくる」という共通のめあてをもち、友達とアイデアを出し合ったり、試行錯誤しながら遊びの場をつくったりする楽しさを味わうと、イメージが次第に共通化し、友達と一緒に実現する充実感を味わうことにつながっていることが分かった。
 ○身近な材料や用具を整えたり、遊びにじっくりと取り組める時間を保障したりする援助をすると、自分の考えを友達に伝えたり共感し合ったりしながら、共通のめあてが具体的になっていく体験を重ね、遊びが深まっていくことが分かった。
 ●実践のような姿は、小学校生活において、教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする姿などにつながっていく。

事例2 接続前期 ドッジボールをしよう

11月

保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】</p> <p>楽しんで体を動かしたり挑戦したりするようになる。</p> <p>【思考力, 判断力, 表現力等の基礎】</p> <p>同じ思いやイメージをもつ友達に経験したことや考えたことを自分の言葉で伝え, 遊びを進める。</p> <p>【学びに向かう力, 人間性等】</p> <p>友達と一緒に思いや考えを伝え合いながら, 楽しんで遊ぼうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体を思い切り動かす気持ちよさを味わい, 繰り返し取り組む。【健康】 ・友達の思いや考えを聞いたり受け止めたりして遊びを進めていく。【人間関係】 ・遊びや生活の中で数量や図形などに興味をもつ。【環境】 ・自分の思いや考えを自分なりの言葉で表現する。【言葉】 ・経験したことを相手に分かるように伝えたり, 行動で示したりする。【表現】



ねらい ドッジボールを通して, ルールの大切さに気付き, ルールを守りながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。

遊びや活動の実際 C: 幼児の活動 T: 先生の言葉かけや関わり	★: 援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
--	---------------	----------------------------------

<遊びや活動の経過>

運動会の経験を通して, 自ら様々な運動に挑戦したり, 友達とリズム遊びやルールのある遊びを楽しんだりして, 満足感や充実感を味わっている。そのような中, 戸外で友達と誘い合って自分たちなりのルールでドッジボールをする姿がよく見られるようになる。しかし, 遊ぶたびに, 勝敗にこだわってルールを守れなかったり, トラブルになったりしている。

<p><楽しく遊ぶにはどうしたらいいのかな></p> <p>T: みんなでドッジボールをしよう。</p> <p>C: やった! チームに分かれよう。黄帽子の人はこっちだよ。</p> <p>C: 何人ずつなの。並んでみて。人数が同じじゃないよ。</p> <p>T: グループの人数が違うみたいだね。どうしたらいい。</p> <p>C: 黄帽子の方が2人多いよ。紫チームに1人行ったら。</p> <p>C: 誰が行く? ジャンケンをする?</p> <p>C: 僕がいくよ。</p> <p>C: じゃA君は紫帽子に変えて。仲間になったね。</p> <p>★: チームの人数を同じにするアイデアを出したり, 譲ったりする姿を認め, 自分たちで問題解決できるように促す。</p> <p><ルールを決めて遊ぼう> (円形ドッジボール)</p> <p>T: 今日はどんなルールで遊ぶことにする?</p> <p>C: ボールに当たったら円の外に出るよ。</p>	<p>・これまでに遊んだドッジボールの経験から, チームの人数を同じにする必要性に気付き, 人数を数えたり2列に並んで確かめたりしている。【数量や図形, 標識や文字などへの関心・感覚】</p>
--	--



C：頭や顔に投げないようにしよう。
 T：じゃあ、この2つのルールでやってみよう。ゲーム開始！
 C：Bちゃんいくよ。
 C：早くボールを投げて。当てられないよ。
 C：すぐにボールを取って来て。
 C：すぐに投げるとボールを当てることができるよ。
 C：上から投げよ。
 C：足をねらって。
★：友達の動きを見て、どうしたらボールが当たるかを考えて発言したり励ましたりしている姿を認める。

<楽しいね、でも困ったね>

C：C君、僕が先にボールをとったよ。
 C：違うよ。僕が先だよ。
 C：C君はさっきも投げたね。僕は1回も投げてないよ。
 C：けんかしないでジャンケンしたら。
 C：C君はさっき投げたから、D君にボールを譲ったら？
 C：分かった。僕は投げたからいいよ。(ボールを譲る)
 T：Cさんはすごい。譲ってあげたね。Dさん、うれしいね。
 C：うん。C君、ありがとう。

★：ボールの取り合いが起き、遊びを中断することになった。すぐに仲裁に入らず、解決方法を提示した幼児や気持ちの調整ができた幼児を認め、自分たちで解決できるように働きかける。

<みんなで遊んで楽しかったね>

C：黄帽子チームは6人で、紫帽子チームは5人だから、僕たちの勝ちだね。やった。
 C：黄帽子チームの勝ち。バンザーイ、バンザーイ。
★：ルールを守りながらみんなで楽しく遊べたことを認め、満足感や充実感を味わえるようにする。

・ドッジボールをして遊ぶ中で、投げる、とる、走る、かわすなどの動きを経験するとともに友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わっている。

【健康な心と体】



・相手に思いを伝えたり、周りの幼児が互いの思いを聞いて仲裁したりしている。楽しく遊べるよう気持ちに折り合いをつけたり、自分たちで問題解決をしたりしている。**【協同性】**



・残った幼児が並び、全員で人数を数えて勝敗を確かめ、喜びを共有し満足感を味わっている。

【道徳性・規範意識の芽生え】

考
察

○実践のように、仲間意識をもちながら繰り返しドッジボールを楽しむことは、体験的にルールの大切さに気付くとともに、問題が起きたときに思いを伝え合ったり、折り合いを付けたりして問題解決していこうとする姿につながるということが分かった。
 ○ドッジボールを通して、投げる、とる、走る、かわすなどの運動的な技能が身に付いていることが分かった。また、ボールをよく見て動いたり、先を見通して行動したりする姿が見られるようになることが分かった。
 ○ルールを守りながら競い合う楽しさを味わえる援助が大切であることが分かった。
●実践のような姿は、小学校生活において、ルールを守って行動しようとしたり、気持ちや行動を自律的に調整したりしていこうとする姿などにつながっていく。

事例3 接続前期 御仏様をかいてみよう

11月

保育所（園）・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 疑問に思ったことを尋ねたり，繰り返し対象を見たりする中で，自分なりのイメージを広げ，のびのびと表現する楽しさを味わうようになる。</p> <p>【思考力，判断力，表現力等の基礎】 同じ思いやイメージをもつ友達に経験したことや考えたことを自分の言葉で伝え，遊びを進める。</p> <p>【学びに向かう力，人間性等】 友達との関わりの中で，互いの頑張りやよさに気づき，認めようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住職のお話を最後まで落ち着いて聞き，日本の文化に触れる。【人間関係】 ・遊びや生活の中で数量や図形などに関心をもつ。【環境】 ・自分の思いや感じたことを自分なりの言葉で表現する。【言葉】【表現】 ・経験したことやイメージしたことを自分なりに工夫して表現する。【表現】



ねらい 御仏様をよく見て，心に描いたことをのびのびと表現する。

活動の実際

C：幼児の活動

T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点

幼児の姿から捉えられる

幼児期の終わりまでに育て

ほしい姿

<遊びや活動の経過>

毎月，本堂で御仏様（阿弥陀仏像）にお参りしているので，正座をしたり，住職のお話を静かに聞いたりすることができるようになってきている。これまでは御仏様について詳しく知ったり，ゆっくりと見たりすることがなかった。御仏様のことをもっと知りたいという思いを受け止め，間近で見たり，疑問に思ったことを質問したりする中で，自分が感じたまを絵にかく活動につながる。

<御仏様(阿弥陀仏像)について話を聞こう>

T：今日は御仏様を皆さんの見えるところに出して，A先生（住職）にお話を聞きましょう。

C：わあ，ピカピカだね。光っているよ。

T：御仏様を見て，気付いたことを言ってごらん。

C：なんで目をつぶっているのですか。

T：つぶっているように見えてつぶっていません。半眼といいます。皆もにっこり笑うと目が細くなりますね。御仏様はいつでもみんなを見ています。

C：耳が大きいのはなぜですか。

T：耳が大きいのは，皆の声を聴くためです。口を見てください。人は不機嫌になると口元が下がり，ほほえむと口元が上がります。御仏様は優しくほほえんでいますね。

C：頭は。

・近くで御仏様を見ることで，自分たちと違うところや気付いたことを具体的に質問している。

【言葉による伝え合い】



・住職の話聞きながら，不思議に思ったり，納得したりしている。**【思考力の芽生え】**

T：頭のブツブツは髪の毛です。頭の形が盛り上がっているのは知恵が一杯入っているからです。

C：なぜ、着物を着ているのですか。

T：着物は一枚しか着ていませんが、御仏様は寒さ知らずです。

C：頭の周りの筋状のものは、何ですか。

T：光を表しています。金色なのは、まぶしいくらい光り輝いているということです。

★：幼児の疑問を受け止め、分かりやすい言葉で御仏様の特徴を知らせ、興味を引き出すようにする。

<御仏様を見たり、描いたりしよう>

C：(近くで御仏様を見て) 本当にちょっと笑っているね。

C：右手がOKしているね。どうしてなのかな。

C：左手は違うよ。A先生に聞いてみよう。

C：どこから見ても僕を見てみたい。すごいね。

T：御仏様は皆さんの心の中にいます。あなたが思う御仏様をかきましょう。

C：わあ、僕、御仏様をかけるかな。

C：自分の心にある御仏様だって。よし、かいてみよう。

C：御仏様の眼って何でも見えるのだね。優しい眼だね。

★：御仏様の絵をかきながら気付いたことや不思議に思ったことを質問したり、よく見て丁寧にいかいたりしている姿を認めるようにする。

<描いた絵を見せよう>

C：できた。A先生に見せてこよう。A先生見て。

T：すごいなあ。優しい顔の御仏様だね。背中の雲や髪の毛などが丁寧にかけられているね。

C：先生、ピカピカ光っているところもかいたよ。

T：美しいね。ありがたい仏様だね。

★：幼児の絵を見て、特徴をとらえたり丁寧にいかいたりしているところを褒め、満足感を味わえるようにする。



・自分の心の中の御仏様を大切に思い、感じたことを思いのままにかいている。また、よく見ることでその特徴に気づき、細かく丁寧に描いている。

【豊かな感性と表現】



・先生からかいた絵をほめられ、御仏様をかき上げた喜びを感じ、充実感や満足感を味わっている。【自立心】



考

○実践のように、御仏様について疑問に感じたことや興味をもったことについて住職から具体的に話を聞くことによって、幼児の心が動き、さらによく見ようという表現意欲につながっていることが分かった。

察

○御仏様のことを丁寧に説明したり、かいた絵のよさを具体的に認めたりすると、幼児は特徴を捉えて細やかにかいたり、気付いたこと感じたことをのびのびと表現したりする喜びを味わえることが分かった。

●実践のような姿は、小学校の学習において、様々な表現の基礎となるだけでなく、感性を働かせ、表現することを楽しむ姿などにつながっていく。

事例4 接続前期 どんなお弁当をつくろうかな

11月

保育所(園)・幼稚園


事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 調理することによる食材の変化の不思議さに気付き、友達に伝え合い興味をもつようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 様々な経験を通して、食べることへの興味や関心をもち、命につながる食べ物を大切にすることを知る。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 調理する楽しさや大変さを知り、つくってくれる人に感謝しようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・料理を味わいながら、体と食べ物に関係に関心をもつ。【健康】 ・友達と一緒に工夫し協力しながら、お弁当づくりをする。【人間関係】 ・物の数を数えたり、比べたり、順番を言ったりする。【環境】 ・考えたことや経験したことを友達や先生に話す。【言葉】 ・彩りなどを考えながら、自分なりに盛り付けを工夫し取り組む。【表現】



ねらい 調理する中で、食材の変化の不思議さに気付き、調理することへの意欲をもち、弁当づくりを楽しむ。

遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関り ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
--	----------------------------------

<遊びや活動の経過>
毎日、給食の食材を実際に見て触る、匂いをかぐなどして食材の名前や特徴を知ること、「食」への関心をもつきっかけにしている。育てた野菜を切り、いためる活動では、調理する楽しさを味わっている。また、米づくりにも関心をもち、収穫までの経過を写真や絵本で調べる中で、自分たちが炊いたお米でおにぎりをつくってみたいとの発言が聞かれる。つくりたいお弁当を絵にかいたり、粘土でおにぎりやおかずをつくったり詰めたりする中で、さらに意欲が高まっている。

<p><上手にお米をとげるかな> T：はじめは、お米を洗うところからやってみましょう。 やさしくやってみてね。 C：猫の手で混ぜるよ。 C：10回混ぜるね。1, 2, 3, …8, 9, 10。オッケー！ C：水が白くなった！急いで水を流そう。 C：あっ、お米と一緒に流れそう。 T：大丈夫。ボールに手を添えてそうっと水を流してね。 ★：1, 2, 3と唱えながら、お米を洗っている様子を見守り、水を流すときの要領などを状況に応じて知らせる。</p> <p><ピーマンとシメジを炒めてみよう> T：調味料のごま油を入れて、ピーマンとシメジを炒めるよ。</p>	<p>・衛生に関する約束事を守りながらお弁当づくりへの意欲をもち、食材の下準備をする。【健康な心と体】</p>  <p>・調理する過程での食材の様々な変化に気付き、好奇心や探</p>
---	---

C：それって、ごま油？
 C：ほんとだ。ごまの匂いがする。
 C：ピーマンを入れたら、シュワーツと音がしたよ。
 C：いい匂いがしてきたね。
 C：シメジがはしに刺さって、混ぜにくい。
 C：ピーマンが、ぐにやぐにやっとなった。汁も出てきた。
★：炒めていくうちに汁が出てしんなりしていく様子や野菜の匂いがしてくることに気付いた発言を受け止め、他の幼児にも知らせ、変化の様子に関心をもちながら調理できるようにする。

<ご飯が炊けたよ、おにぎりをつくろう>
 C：煙が出たよ。熱そう。ほかほかご飯は、芋の匂いがする。
 T：この煙みたいなのは、「ゆげ」っていうよ。
 C：お茶碗にご飯を入れるよ。
 C：ご飯は、これくらいでいい。
 C：ありがとう。私、丸いおにぎりにしよう。
 C：僕は、四角のおにぎり。
 C：僕は三角にしよう。おにぎりは、いくつもつくっていい？
 T：自分が食べられるだけをつくってね。Aさんは、三角おにぎりをつくるのが上手ね。
 C：三角おにぎりをつくるの、うちのお母さんも上手よ。

<どんなお弁当にしようかな>
 T：さあ、お弁当づくりを始めましょう。
 C：私、おにぎりは1個にする。
 C：3個食べられるから3個並べて、横にシメジを入れよう。
 C：私は2個。丸いから2つつなげてだるまみたいにするよ。
 C：おかずを入れたら、お弁当箱がいっぱいになって、おにぎりが1個しか入らなくなった。
 C：おにぎりは、お弁当箱のふたに置くといいよ。
 C：わかった。ブロッコリーはハンバーグの横に入れて。
 C：ブロッコリーを入れたら、なんか美味しそうになったね。
★：一人一人の詰める様子を見守り、いろどりや配置の面白さを工夫している姿を認め、皆に紹介する。

究心をもって感じたことを素直に表現している。

【豊かな感性と表現】



・自分の適量を考えながら、大きさや形などを考え、おにぎりをつくっている。

【健康な心と体】



・素材の特徴を生かしながらおいしそうに見える工夫をして盛り付けをしている。

【豊かな感性と表現】



考
察

○実践のように、「お弁当づくり」という活動をする中で、変化する食材の不思議さや色、形、感触、匂いなどに、興味や関心をもつようになることが分かった。
 また、必要感から数えたり比べたりする姿につながる事が分かった。
●実践のような姿は、小学校生活において、食べ物や健康などへの興味や関心を持ち、自ら健康な生活をつくりだそうとする姿などにつながっていく。また、生活や遊びの中で、必要感から数えたり比べたりなどする経験を重ねることは、小学校の学習における実感を持った理解につながっていく。


事例5 接続前期 めっきらもっきら どおんどん

12月

保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 多様な動きを経験する中で、体を動かす楽しさや挑戦する面白さを味わい、進んで運動しようとするようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】 同じ思いやイメージをもつ友達に経験したことや考えたことを自分の言葉で伝え合い、遊びを進める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 目的に向かって自己発揮し、達成感を味わいながら楽しんで遊ぼうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動的な遊びの中で、自分なりのめあてをもち、根気強く取り組む。【健康】 ・友達と考えを出し合って遊ぶ中で、自分の気持ちを調整しながら遊ぶ。 <p>【言葉】【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通の目的に向かって、遊び方を考えたり、役割分担したりしながら協力して遊ぶ。【人間関係】【言葉】 ・経験したことやイメージしたことを工夫して表現する。【表現】



ねらい 自分なりのめあてをもって運動的な遊びに取り組み、自己発揮しながら達成感を味わう。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
<p><遊びや活動の経過> 運動会をきっかけにして、一人一人が様々な運動的な遊びに挑戦するようになり、鉄棒や跳び箱への意欲が継続している。また、大好きな「めっきらもっきら どおんどん」の絵本を題材にして運動会で競技をしたことに続いて、幼児から、生活発表会でも運動会とは違った運動的な遊びに挑戦して披露したいという意見が出てきている。そこで、幼児たちと劇の中で何を披露するのかを話し合い、それぞれがめあてをもって取り組めるようにする。</p>	
<p><ぼく・わたしは、跳び箱に挑戦しよう> C：僕は跳び箱に挑戦するよ。 T：Aさん、跳べたね。すごいね。 C：A君、どこに手を着くといいのか教えて。 C：真ん中よりもっと向こうだよ。届くかな。 C：B君、大丈夫だよ。手をしっかり伸ばして。こわがったらスピードが落ちてしまうよ。勇気を出して。 C：やった。跳べた。</p> <p>★：勇気を出して挑戦することで、跳べたときの達成感は大きな自信につながっている。また、友達と教え合い励まし合うことで、挑戦する楽しさを味わっている。これらの姿を認め、達成感や意欲をもてるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と教え合ったり励まし合ったりしながら、挑戦する楽しさを味わっている。 <p>【健康な心と体】 【言葉の伝え合い】</p> 

<ぼく・わたしは、竹馬に挑戦しよう>

C：今日は園長先生が見てくれるの？
 T：そうよ。一人でできそうかな。
 C：見ていてね。マットの青い線まで行けるようになったよ。
 T：すごいね。園長先生はここから応援するね。
 C：スタートします。いち、に。いち、に。
 T：上手になったね。まっすぐ前を見てごらん。
★：意欲的な姿を認めて自信をもてるようにするとともに、マットに色の違うテープを貼ることで、自分なりにめあてをもって取り組めるようにする。

<ぼく・わたしは、鉄棒に挑戦しよう>

C：逆上がりに挑戦だ。できるかな。
 T：体を鉄棒に引き付けるようにやってごらん。
 C：先生、難しいね。勢いを付けないとだめみたい。
 T：友達が逆上がりをやっているのを見てごらん。
 C：(友達の様子を見る) 頑張ってみる。
 (友達の前上がりをまねしながら、何度も挑戦していた。)

★：友達とつなぐ声かけをし、意欲を引き出す。

<劇遊びも頑張ろう>

C：僕は、もんもんびやっこになるよ。前跳びと後ろ跳びはできるけど、あや跳びはまだできないよ。
 C：できたら皆に見せたらいいね。びっくりするよ。
 C：僕は、おたからまんちんだよ。逆上がりをするときに、かっこよくしたいけど。
 C：逆さまになったとき、足を伸ばしてから起き上がったら。
 C：(おたからまんちんになりきって、逆上がりをする) こんな感じかな。
 C：いいね。C君、かっこいいよ。

★：友達とイメージを共有しながら表現を工夫し、共通の目的に向かっている姿を認め、励ます。

・励まされ、見守られる安心感の中で、意欲的に取り組んでいる。**【自立心】**



・生活発表会で披露したい運動的な遊びに、繰り返し挑戦している。**【自立心】**



・生活発表会という共通の目的に向かって、練習してきたことをどう発揮しようかとイメージを共有しながら考えを出し合い、実現しようとしている。**【協同性】**



考

○実践のように、一つの絵本を題材にすることで、イメージを共有しながら意識を継続させることができるということが分かった。また、運動会や生活発表会など学級全体で共通の目的に向かって取り組む体験を重ねる中で、それぞれが自己発揮しながら、友達と協力してやり遂げようとする姿につながるということが分かった。

察

○実践のように、絵本のイメージの実現に向けて運動的な遊びに繰り返し取り組む中で、諦めずに何度も挑戦する姿や、できた喜びや達成感から次のめあてをもち、遊びを深めていく姿につながるということが分かった。

●実践のような姿は、小学校生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿や、協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていく。

事例6 接続前期 大すき ぼくらのさくらの木 12月 保育所(園)・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】</p> <p>友達との関わりの中で十分に自己発揮し、最後までやり遂げた達成感や充実感を味わい、互いのよさや頑張りに気付くようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】</p> <p>本物らしさを求めて材料を選んだり、友達と工夫して表現したりして遊ぶ。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>これまでの多様な経験を生かしながら、よりよい考えを生み出して遊びを進めようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを出し合って遊ぶ中で、気持ちを調整しながら遊ぶ。【人間関係】 ・友達と共通の目的に向かって、遊びを考えたり、役割分担をしたりしながら協力して遊ぶ。【人間関係】【言葉】 ・経験したことやイメージしたことを工夫して表現する。【言葉】【表現】 ・自分の思いや考えを自分なりの言葉で表現する。【言葉】




ねらい 友達と考えを出し合いながら遊びを進めていく楽しさを味わい、友達とのつながりを深めていく。

遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
---	----------------------------------

<遊びや活動の経過>

園庭の桜が老木となり、安全管理上、伐採が決まる。幼児たちに話すと、入園時から身近に感じている桜の木に対して様々な思いをもっていることが伝わってくる。「桜がなくなることを皆に知らせたい」という声上がり、「生活発表会で発表しよう」という共通の目的となる。桜の枝を集めたり、桜に関する絵本を見たりする中で、「季節ごとの桜の絵本を作って発表しよう」という具体的なめあてとなり、グループに分かれて大型絵本づくりが始まる。

<p><四季の絵本をつくろう></p> <p>春グループ</p> <p>C：絵本の表紙は桜の木にしようよ。</p> <p>C：いいね。公園でひろった桜の枝を使おうよ。</p> <p>T：そうね。桜の枝も喜ぶよね。わあ、どんな桜の木に会えるのかな。楽しみだね。</p> <p>C：春は花見をしたね。花びらがヒラヒラとふってきたよ。</p> <p>C：すごくきれいだったね。桜ご飯もつくって遊んだね。</p> <p>C：先生、私たちは春の桜だから花を一杯咲かせたい。</p> <p>C：そうしよう。まずは桜の枝で形をつくろうよ。</p> <p>★：春の桜の木にまつわるエピソードを思い出し、自由に発言する姿を認める。友達と思いやアイデアを出し合いながら絵本をつくっていけるような時間を保障する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや感じたことを相手に分かるように話したり、友達の思いを聞いたりして共感している。桜の枝を使って木の形をつくりながらイメージを共有している。【言葉による伝え合い】 
---	--

秋グループ

T：あら，Aさん，Bさんどうしたの。話してごらん。

C：Aちゃんがここに枝を貼ったけど違うよ。僕が見たときはこうだったよ。（枝を貼りかえようとする。）

C：だって私が見たときはこうだったよ。はがさないで。

C：けんかしないで，一人ずつ話したらいいと思うけど。

C：どこが違うのか，聞いても分からないね。

C：どうする。絵にかいて説明したら。

C：（二人がかいた絵を見て）ここが違うってこと。

C：もう一回，外の桜の木を見て確かめよう。

C：いいよ。もう一回見てから決めよう。

★：思いを相手に伝えるための伝え方を工夫し，折り合いをつけることができている。自分たちで問題解決しようとする姿を認め，見守る。

<ぼくらの桜の木をつくろう>

C：先生，生活発表会のときに，桜の木と一緒に出たいね。

T：Cさんの気持ちも分かるよ。だって，外の桜の木のことを話すのだからね。どうしたらいいかな。

C：大きい桜の木を皆でつくって飾ろうよ。

C：それがいい。桜の木も喜ぶよ。本物みたいにつくろう。

C：大きい枝に新聞を巻いていったら？

C：そうだね。新聞で巻いたら倒れないね。下の方を太くした方がいいよね。

C：茶色のポリ袋で巻いて，模様はビニルテープでいいね。

C：桜の花もたくさん飾ろう。春の桜にしようね。

★：それぞれが自己発揮し，皆で一つのものを完成させようとする意欲が感じられるので，様々な材料や用具を幼児と一緒に準備し，主体的に材料を選んで本物らしくつくっていくようにする。

・生活発表会当日は，皆でつくった桜の木を中央に飾り，四季の桜の木を表現した4冊の大型絵本で，桜への感謝の気持ちを伝えることができた。また「おもいでアルバム～桜編」を歌で表現し，充実感や達成感を味わうことができた。

・自分のイメージを伝えたり，相手の思いを受け止めようとようとしていたりしながら，幼児同士で解決し，イメージを共有している。

【言葉による伝え合い】



・桜の木を本物らしくつくろうという共通の目的が生まれ，学級全体でアイデアを出し合い制作している。

【協同性】



・友達と共通の目的を達成し，充実感や達成感を味わっている。【協同性】【自立心】



考

○実践のように，共通の目的に向かって共感しながら友達と実現する体験は，互いの思いやアイデアを出し合い，試行錯誤しながら遊びを進めていく楽しさや本物らしくでき上がっていく喜びを味わい，友達と一緒に遊びをつくっていくおもしろさにつながる事が分かった。

察

●実践のような姿は，小学校における学級での集団生活の中で，目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し，様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組む姿などにつながっていく。


事例7 接続前期 こんどは、まけないぞ！

12月

保育所（園）・幼稚園

事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】</p> <p>ルールの必要性が分かり、意識して行動するようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等の基礎】</p> <p>友達の思いや考えの違いに気づき、互いのよさを認めながら遊びが楽しくなるように工夫する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>共通の目的に向かって遊ぶ中で、チームの友達と折り合いをつけながら遊びを進めようとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに挑戦し、友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。【健康】 ・ルールを守ったりつくったりしながら友達と一緒に遊ぶ。【人間関係】 ・身近なものに関わる中で数、量、文字、記号などに関心をもつ。【環境】 ・友達の話を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりして会話を楽しむ。【言葉】



ねらい 遊びのルールを決めたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。	
遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育て ほしい姿
<p><遊びや活動の経過></p> <p>鬼ごっこ、サッカー、カルタとりなどの遊びのルールを自分たちで決めたり、状況に応じて変えたりして遊ぶ姿が見られる。チームをつくって、競い合う様子も見られる。その中で、以前、赤白オセロゲームで遊んだ経験から、「先生、赤白オセロをしよう」という声があがる。「みんな遊びたい」という声と相まって、2チームで行うこととなる。</p>	
<p><チームになろう></p> <p>C：帽子の色で2チームに分かれるよ。</p> <p>C：緑と黄色。黄色は帽子をひっくり返すよ。</p> <p>C：分かった。AグループとBグループは緑よね。</p> <p>C：CとDグループは黄色ね。帽子を黄色にして。</p> <p>C：緑チームは白オセロを赤に返して、黄色チームは赤オセロを白に返そう。</p> <p>C：私は黄色チームだから、赤オセロを白に返したらいいね。</p> <p>C：チームの人数は、10と10で同じだね。</p> <p>C：返すのを間違えたら相手チームの点になるよ。</p> <p>C：気を付けよう。</p> <p>★：ルールやチームの人数、オセロの色などを皆で一緒に確認しながら、クラスで共通理解する。</p> <p><1回戦、開始></p> <p>C：よし。こっち。ここ、ここ返すよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皆で遊びに必要なルールや約束を確認し合いながら、共通の目的に向かって話し合ったり考えをまとめたりしている。 <p>【協同性】</p> 

C：いっぱい返すよ。

C：あっ、タイマーが鳴ったよ。終わりよ。早く座って。

C：今、タイマーが鳴ったのに、Aちゃんが返した。

C：今のだめよね。ずるい。もとに戻して。

C：わかった。もとに戻すよ。

★：ルールを守れなかったとき、負けて悔しいときなどの状況に応じて話し合いをもち、自分達で解決できるようにする。

<赤白は何個になったかな>

C：1，2，3，…。白47。赤は20やった。

C：黄色の勝ち。やった！

T：今度はコマを並べて長さを比べてみよう。

C：白の方が長くて赤は短い。

T：白は長くて数は47で多かったね。赤は短くて数は20で少なかったね。

T：今度は重ねて高さを比べてみよう。どうかな。

C：赤の方が低い。白の方は高い。悔しいなあ。

T：赤は低くて、白は高いね。黄色チームが勝ったけど、次はどちらが勝つかわからないよ。

★：勝敗を決めるという必然性の中で、コマを数える、集める、数や長さや高さを比べるなど、様々な比べ方があることを体験できるようにする。

<2回戦の前に作戦会議>

C：次こそは、負けないからね。スピードアップよ。

C：一度にたくさん返すよ。いい、わかった。

C：両手で返そう。

C：私たちは赤色にするよ。間違えないようにしよう。

★：チームで速く返すための方法やルールを確認している様子を見守る。

(2回戦を行う)

T：白42，赤25。黄色チームが勝ったけど、緑チームの数も増えたね。

C：負けたけど、楽しかった。また、したいね。

・より遊びを楽しくしたりするためにルールのあることが分かり、折り合いを付ける。

【道徳性・規範意識の芽生え】



・長短、高低などに親しむ経験を重ね、必要感から数えたり比べたりしている。【数量・図形、文字等への関心・感覚】



・チームで力を合わせて競争する楽しさや、やり遂げた満足感を味わっている。【協同性】



考
察

○実践のように、挑戦しようとする気持ちを受け止め、明確な目的をもてるようにした。チームの勝利に向けて自分の力を出すことや、一人一人の力が集まるからこそ勝てることを実感し、チームで競い合う楽しさや、やり遂げた満足感を味わうことにつながるようになった。

●実践のような姿は、小学校生活や学習において、負けて悔しい思いをしながらも互いのよさや頑張りを認め気持ちに折り合いをつける姿や、次への意欲をもち挑戦する姿などにつながっていく。

事例8 接続前期 こんどは、どの役をしようかな

12月

保育所(園)・幼稚園


事例を通して	育みたい資質・能力	<p>【知識及び技能の基礎】 友達によさに気付いたり，認め合ったりし，協力してやり遂げるようになる。</p> <p>【思考力，判断力，表現力等の基礎】 互いの思いやイメージを伝え合いながら，遊びを進める。</p> <p>【学びに向かう力，人間性等】 友達と一緒に劇ごっこに取り組み，表現することを楽しもうとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活での場の使い方等を考えながら準備したり片付けたりする。【健康】 ・ 目標に向かって，友達と協力してやり遂げる。【人間関係】 ・ 経験したことや想像したことを取り入れて遊ぶ。【環境】 ・ 思いや考えを分かるように話したり，相手の話を理解しようとしたりする。【言葉】 ・ 感じたこと，イメージしたことを言葉や体で表現する。【表現】



ねらい 生活発表会で演じた劇を振り返り，役割を交替して劇遊びをすることを通して，友達と一緒に共通の目的に向かって取り組む楽しさを味わう。

遊びや活動の実際 C：幼児の活動 T：先生の言葉かけや関わり ★：援助する上での留意点	幼児の姿から捉えられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
---	----------------------------------

<遊びや活動の経過>
 生活発表会の練習を通して，皆で役についての思いやイメージを話し合った。出された考えやアイデア，工夫を役づくりや小道具づくり，衣装づくりに生かしていった。生活発表会の経験を通して，一人一人が自信をもって様々なことに挑戦する様子が見られた。生活発表会后，劇を振り返ることで役のイメージや台詞が共有でき，友達と劇ごっこをする姿が見られるようになる。「他の役をしてみたい」「他の先生に見てもらいたい」という声が聞かれるようになる。

<p><どの役をしようかな> T：役を交代して劇ごっこをするよ，どの役をしたいかな。 C：今度は，ちゅうこさんの役がしたい。 C：また，風の役がいいな。他の役，むずかしそう。 C：お日様をしたから，次は雲にしよう。 ★：役を決めていく様子を見守り，戸惑っている子には助言する。</p> <p><僕・わたしも その役がしたい> C：Aちゃんが，風の役がいいって。 C：B君も，風の役がいいって。 T：AさんとBさんはしたい役が重なっているね。CさんとDさんはまだ決まっていないね。お月様の役は誰がなるかな。 C：じゃあ，僕がお月様役をするよ。 C：D君，雲はどう？ネズミはどう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活発表会での役のイメージを皆で共有しながら役決めをしている。【自立心】  <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の困った様子に気づき，進んで役を譲ったり，相談したりして，折り合いを付けようとしている。 <p>【道徳性・規範意識の芽生え】</p>
--	---

C：Eちゃんと一緒なら、ネズミの役をしたい。

C：いいよ。一緒にしよう。

T：全員の役が決まったね。

★：一つの役に複数の希望者が重なったことを知らせ、幼児同士の話合いへと導く。様子を見守り、状況に応じて担任がコーディネートする。

<劇が始まるよ>

C：お面をつけたら、ここに並ぶよ。この耳もつけて。

C：Fちゃんはこっちだよ。ここに座って。

C：ちゅうこさん役が1番に出るよ。

C：2番目はちゅうこさんのお父さんとお母さんだよ。

C：踊りの時は、こうやって手を挙げるといいよ。

C：大きく手を振った方がよく見えるよ。

C：ちゅうたろうは一番最後に、壁をかじって出てくるよ。壁の後ろに隠れて。

T：Kさんが教えてくれたから、もっと素敵になったね。

★：お互いに確認し合いながら、役の衣装に着替えたり、順番に並んだりするなどの様子を見守る。

<楽しかったね また、したいね>

T：発表会の時と役を交替して劇をしたけど、どうだった。

C：風がかっこよかった。

C：ネズミがかっこよかった。

C：違う役もしてみたら、楽しかった。また、してみたい。

C：今度はおばさんの役をしてみたい。

T：皆とても素敵にできたね。今度他のクラスの先生や友達に見てもらおうね。

★：満足した思いや、次回の劇ごっこに向けての意欲的な発言をクラスで共有し、次につなげる。



・劇ごっこがよりよいものになるように、互いの思いやイメージを伝え合い、工夫して演じている。

【豊かな感性と表現】



・共通の目的に向かってお互いの思いや考えを出し合い、クラス全体で楽しみながら劇ごっこをしている。【協同性】



考 察

○実践のように、互いの思いやイメージを伝え合い、共感できるような話し合いの場や時間を十分にもつことは、友達に認められたり、友達のよさを感じたりしながら、皆で取り組む楽しさを共感できる姿につながることが分かった。

○実践のように、生活発表会での経験を踏まえた劇ごっこをすることは、「次は〇〇役をやってみたい」「他のクラスの先生に見てもらいたい」などの意欲や見通しをもつ力などの育ちにつながったり、一つ一つの活動や経験が意味や価値あるものとして幼児自身の中に積み重なり発揮されたりすることが分かった。

●実践のような姿は、小学校の学習において、感性を働かせ、友達と一緒に表現する過程や表現そのものを楽しむ姿などにつながっていく。

●実践のような姿は、小学校の学習や生活において、お互いのよさに気付いたり、認め合ったりしながら、協力して共通の目的に向かい、やり遂げることを楽しむ姿などにつながっていく。

